

【校長通信 5月3日号】

みなさま、踏ん張っていますか？

私も人生なかばに差しかかり、「とき」の大切さを(若かった時よりずっと)実感しておりました。先日、コロナでお亡くなりになられた女優の岡江久美子さんが生前「毎日が祭りだ！と思って生きたい」とおっしゃってたテレビで知りました。

まさしく同じような感覚です。残された自分の人生、「とき」の流れに対し、自分の意思をしっかりと持って、「流れていきたい！」と強く思っておりました。しかし、ここ2か月ほどは、コロナ禍の大きな波に翻弄され、自分の意思をもって流れるどころか、それとは裏腹に、コントロール不能で「流されている」というのが実感です。みなさま、同じ感覚ではないでしょうか。

「なんとかみんなで踏ん張り、我慢して5月7日は学校再開、社会も徐々に再始動し始める」というのは、絵にかいたモチに終わってしまいました。

日々の生活の中で、「甘く思っははいけない」と感じつつ、どうしても正常バイアス(自分だけは特別。大丈夫という根拠のない安心感を抱いてしまう)という感覚を持ってしまっていました。

「緊急事態宣言延長あと1か月」「そのあとも第二波、第三波への備えが必要」などいろいろと報道されています。リスクマネジメントとしては、「最悪のことを想定して」と言われますが、「最悪のこと？ どこまで最悪のことを想定するべきなのか？」と常々思っていました。コロナ禍以前の社会には戻れない、「当分の間、新型コロナと共存していく」という覚悟をしなければいけないと思います。

学校はこれからどうしていくべきなのか？ どうあるべきなのか？

諸条件が明確化されていない今、何もたいしたことをお知らせすることができないのが現状です。「三密を避けての授業はどうすればいい？」「食事中、生徒同士の会話中での飛沫感染を防ぐには？」「クラブ活動はどういう形で実施できるのか？」「学校行事はどこまで可能か？」

「学校の登下校中(電車の中など)、学校にいる間に感染するかもしれない、学校がクラスター化するかもしれない」というのを集団が集う学校としてどこまで防ぎきることができるか？

元のように戻るにはまだまだ時間がかかるとして、これから新型コロナとどう共存して、新しいかたちの学校生活を考えていく必要があります。

箕面自由学園としても学校再開に向けて、英知を結集して考えています。ただもう少し、事態を見守らないとはっきりとしたことは言えないというのが本音です。先が見えない中での決断です。時間と共に解明されていくこと、決まっていくことが判断材料になります。

「GW も教育活動を止めない」ということで、GW 期間中も各学年、いろいろな動きをとっています。各学年の取り組みはホームページにもアップしていますので、ご覧ください。

学校としては、「学校再開しても教室で授業をし、軌道に乗るまでは、かなりの時間がかかる」、「長丁場になる」という覚悟をし、それに備えるべくもうすでに動いております。

生徒のみなさんへ

お元気ですか。心と体の健康状態はどうですか。

何かありましたら、保護者や学級担任に遠慮せずに相談してください。

発熱したりすると、正直にお知らせください。我慢する必要はありません。

自分を守り、家族、周囲の人たちを守ることなのですから。

GW 期間中、君たちが踏ん張ってくれていることはいろいろと聞いています。

ごくろうさま、そして、ありがとう。

私たち教職員も踏ん張っています。

GW の期間中も授業をしながら、たくさんの教員が学校で、自宅で、オンラインを使って研修を受けています。また、zoom 等で会議をし議論しています。

教室での対面授業がなかなか実施できないのであれば、「どのようなツール、授業の仕方をすれば、生徒たちに授業内容が伝わるだろうか」ということについて、試行錯誤を重ねています。考え抜いています。

日々の授業を見ても、そのことが君たちに伝わっていると思います。授業の実施の方法や内容が毎時間バージョンアップしていると思います。

君たちが自宅での授業を受けること、いろいろと不自由なところもあるとは思いますが、(実は授業を実施するほうもなかなか困難なところがあるのです。)逆の発想をすれば、学校での対面授業では実行できなかったことがオンラインの授業では可能になっている部分もあります。

そういう陰ながらの努力・新たな発見を本校教職員がし、日々の授業に臨んでいるということもわかってください。ただし、私たちも現状に満足しているわけではありません。更なる向上を目指します。

社会で、私たちはつながりの中で生きているのです。自分ひとりで生きているわけではありません。私たちは「STAY HOME」と言っていますが、全員が STAY HOME なら社会全体が止まってしまいます。日本は都市封鎖をしているわけではありません。

われわれのために(リスクを承知の上で)外出し、仕事をしている人々がたくさんいることで社会が維持できているということ、テレビ等でよく報道されている医療従事者がそうです。日常生活必需品を作ったり、販売したりしている人もそうです。宅配を注文した時、作ってくれる人、運んでくれる人もそうですね。

そう考えると、私たちはたくさんの職種の人々に支えられながら、「STAY HOME」が実現出来ているということを再認識しておきましょう。感謝の心を忘れないでください。

巷(ちまた)では、急に「9月入学・始業」という話が議論され始めています。

ここでは私見は述べません。どちらを選ぶとしても大きな社会変革、パラダイムシフトです。混乱は避けることはできません。

先が見えない、予想もできない状況が続いていますから、「なんとなく漠然とした不安」がずっと私たちの頭の中にあります。無意識のうちに、私たちの心にストレスを与え続けていることは確かです。

その対処方法3つ挙げておきます。

①まず、今、自分がやるべきこと、やらなければいけないことに集中する。

日々の学習だけとは限りません。どんなことでもいい。自分で考えましょう。自分で決めてください。自分で決めたことですから、自己達成感もあり、漠然とした不安から解放されていきます。

②「何のために、こんな生活を送っているのか？」

日々の STAY HOME、その意味について自分なりにしっかりと意識すること。

自分のいのちを守る、まわりの人のいのちを守る。取り戻すことができないものを失わない。

③「学校再開したら、したいと思うこと、しなければならないこと」を考えておく。

今から心の段取りをしておく。

本来の自分の目的を見失わないように。

ほんとうに君たちに会いたいです。

生徒のいない学校なんて、抜け殻です。建物があるだけです。ゴーストタウンです。

君たちの笑い声に包まれた丘の上の学園を一日でも早く取り戻すために、

お互い踏ん張りましょう。

「2020年のGW」、限られた条件の下、自分なりの楽しみ方を見つけましょう。

コロナに負けるな！ 「勇気、元気、笑顔」を忘れない！ 常に前向き！！

箕面自由学園中学校・高等学校

校長 田中 良樹